

新潟県

平成7年

# 公民館月報

5月

第507号

## 特集 フィリピンのある少数民族（農耕民） 社会に学ぶ（その1）



### 佐渡の車田植

（国指定重要無形  
民族文化財）

車田植は、田の中央に植えた苗を中心に車状に丸く田を植える田植えのしかたで、古い農耕の習俗を示すものとされる。

（写真・資料提供、西津市  
公民館）

### 第 1 回 評 議 員 会 開 催

## 懸案解決に向けて

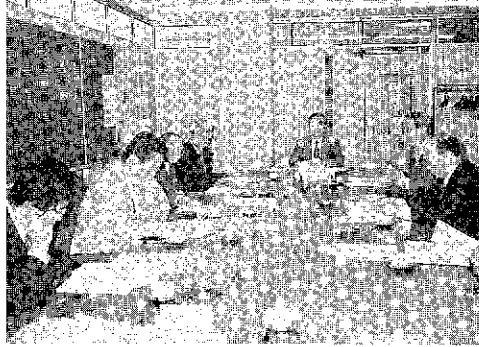
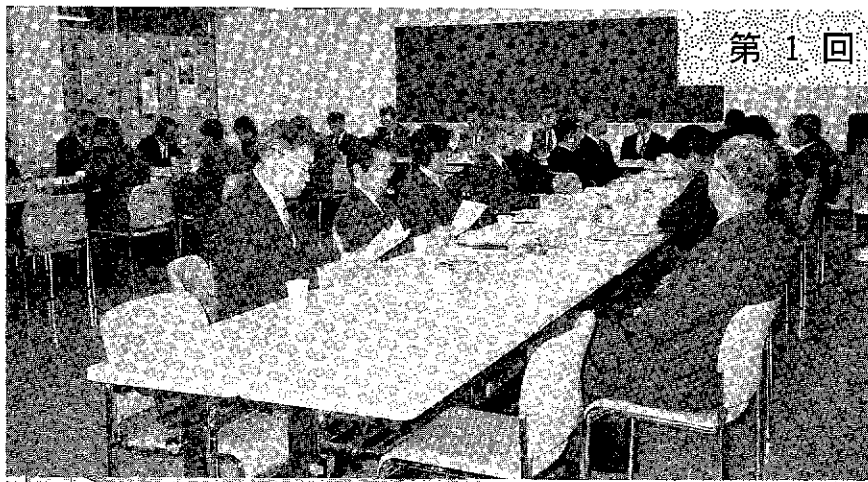
# 本会運営上の体質強化を図る

## 運営検討委員会の答申の扱いを 地区公連等で継続審議を!

四月二十五日(火)新潟市中央公民館二〇三号室を会場に、平成七年度第一回評議員会が開催された。今年度の特色は、本会の運営の充実を期すため財政基盤確立を主軸とする先年度特設された運営検討委員会の答申(六・十二・十四)の扱いについて審議されたことである。

この案件は、今後各地区公連や郡市に持ち帰って意見を聴し、六月中旬予定の理事会で反映されるように努めることとなった。

評議員会終了後、会費持ち寄りによる懇親会が開かれ、来賓の小熊博氏(県生涯学習推進課課長補佐)ほか三氏ともども和やかに交流を深めた。



当日の出席者評議員数は二十八名、欠席七名(うち六名は委任状を提出)で評議員会は成立した。予定通り十三時に開催され、細川仁会長のあいさつのおと来賓紹介。県生涯学習推進課長補佐も代表として激励のあいさつを述べられた。本年度の異動委員が十四名あって自己紹介を入れた。

### 審議の概要

一 平成六年度の会務報告ならびに歳入歳出決算見込み報告。

事務局報告のとおり承認。

二 平成七年度の基本方針・重点目標・事業計画・歳入歳出予算案がそれぞれ執行部原案通り可決された。

平成七年度歳入予算

一、九一〇、〇〇〇円

前年度歳入予算

一三、一〇六、〇〇〇円

差引減

一九六、〇〇〇円

三 第46回新潟県公民館大会要項について

平成七年度七月二十八日(金)於西蒲原郡弥彦総合文化会館

(なお関プロ大会は十月十九日(木)二十日(金)、全国大会と兼ねて開催される予定。主会場は、前橋市群馬県民会館の予定)

四 運営検討委員会の答申について

六年度設置された運営検討委員の四回の会議を重ねて答申された内容について

理事会(七・二・二八)

副会長会議(七・三・二〇)

その扱いを審議した内容の報告があった。(次ページ掲載)

この報告については、今回の

評議員会としては結論を急がず、今後、地区公連、郡市公連等に持ちより意見を収約して、次の理事会(六月中旬予定)で検討を継続していくことと了承された。

### 連絡事項

一 「公民館月報」記事提供の協力について

(1) 評議員会での別紙資料2の割り当てについて、従前のおりご協力ください。都合により提供できないときは早めにご連絡ください。

(2) 八面のネットワーク欄に、各地の公民館事業を紹介したいので、新聞掲載記事の切り抜きを送ってください。

(地元紙：例えば新潟日報でも当方には「県都版」しかありませんので他の地方版掲載の記事。その他の郡市規模の情報誌に掲載された記事)

二 全国公民館セミナー参加候補者を推薦してください。

2泊3日の職員研修。会場は東京代々木オリセン。必要経費は、足代のみ市町村負担で他はすべて全公連もち。県から1名なので多数の場合には選考になりますが、奮って名乗りを上げていただきます。

報 告

運営検討委員会の答申の扱いについて

〔I〕新潟県公民館連合会の在り方について

提 言

- 対応の1 (1) 「新潟県公民館連合会会則 第十条3を改正して、参与を若干名おくこと」とし、旅費日当等程度を支弁する。(下記案)
- (2) 理事会に専門的検討部会を設置する案については、今後検討するものとする。
- 対応の2 「職員部会」を設けることについては、今後も継続的に検討していく。職員等の集まりが積極的にもてるようにする。
- 対応の3 公運審等の県公運組織への組み入れについては今後検討していく。
- 対応の4 「月報」の「通信員」の制度の導入については、編集委員会の任務(同規則第三条、第四条)とも係わってくるので理事会等で検討していく。
- 対応の5 県公民館大会の運営等については今後の検討事項とする。

〔II〕財政基盤の確立について

提 言

- 対応の1、2については 上部団体の県、市町村等との交渉のなかで努力をしていく。
- 対応の3 (1) 平成6年度第2回評議員会(H6. 9. 29)で「公民館月報」の単価を20円アップし、一部150円にすることを承諾を受けた。
- (2) プックレット「(仮題)公民館事業虎の巻」作成にとりかかる。執筆委員等を委嘱する。「公民館運営の手引き」等の残部は平成7年度分程度はある。
- (3) 「安全」の制度は県内外の実情を調査したりして今後研究を続ける。

新潟県公民館連合会 会則 の一部改正について

※〔理事会及び正副会長での検討案〕地区公運等で今後検討する

現 行	改 正 案
第十条 3 顧問、参与は会長の諮問に応じる。	3 顧問は会長の諮問に応じる。 4 参与は理事会、専門委員会において意見を述べることが出来る。

視 点

今でも書  
くことと喋  
ることは大  
の苦手だ  
が、それで  
も何とかそ  
れなりに辻  
褌を合わせ

先生の隣に机を頂戴し  
た途端「君からは公民  
館の新聞を編集しても  
らうことになってい  
る」とのご宣告。実は  
新聞どころか文集の編  
集さえもやったことが

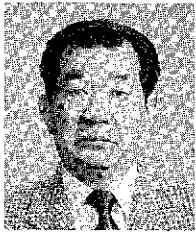
長さんが後に副知事を  
なされた厚地武さん  
で、色々と親切にご指  
導をいただいた。新聞  
の文体は意外に早く慣  
れたが、見出しは非常  
に難しく新潟日報の整

らったキャノンで、そ  
の頃はまだフラッシュ  
がなく三脚を立て、  
グリーンとマグネシウ  
ムを焚きながらの撮影  
であった。  
文章は今も昔も遅筆  
で、発行が時々遅れそ  
うになり、甲田先生に  
よく怒られたものであ  
る。たゞ一つだけの取  
り柄は、指定された字  
数に文章を入れられる  
こと位であるが、兎も  
角も「公民館月報」は  
私にとって人生勉強の  
スタートであった。  
(初代公民館月報編集  
者・銀山商事(株)社長)

櫻 井 文 壺

「月報」は人生勉強のスタート

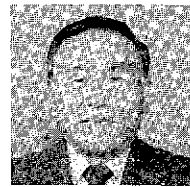
「公民館月報」のお蔭  
と常々感謝している。  
育課に配属され、甲田



なく、取り敢えず文書  
広報課へ行って勉強し  
て来いと言われて四、  
五日通ってから取り  
かゝった様な気がす  
る。  
その時のご担当の係

地域おこしと分館活動

宮 腰 英 武



高齢化社会  
への対応、若  
者の定住対策  
は、今、地方  
の大きな課題  
です。課題に  
応え、魅力ある分館活動は  
どうあったらよいか今まで  
幾度か公民館大会でも議論  
されてきました。

ひ ろ ば

有能な専任職員が配置さ  
れ、社会教育の施設設備が  
整った中央公民館では、生  
涯学習や社会教育講座が住  
民のニーズに応え計画的、  
継続的に実施され成果をあ  
げています。

生涯学習の発表の場「み  
かぶり展」は住民の力作揃  
い。幅広さ深さは情報発信  
の場でもあります。郷土を  
学ぶ教養講座、料理教室、  
ゲートボールを通して老人  
と小学生のコミュニケー  
ションづくり等々。分館活  
動に参加することにより、  
一人一人のエネルギーが結  
集し、地域の活性化、郷土  
愛につながります。

これに対し住民の一番身  
近かな存在の分館では、施  
設設備は借り物、専任職員  
も皆無という現状です。私  
は分館の仕事に関係して以来、  
地域の特色を生かし、地域に根  
ざした分館活動を探って参りま  
した。

当町では、「村おこし知恵  
比べ事業」に補助金を出し、  
活性化を図っています。地区内  
の米増集落では、えしんの里(親  
鸞の妻恵信尼の里)「こぶしの村  
づくり」に取り組んでいます。

分館活動は、人と人との出会  
いから始まり、活動を通して人  
と人のきずなを強めていくその  
結果、自己が高められ、地域の連  
帯意識が育つものと思えます。  
保育園から老人会まで参加の  
審議会委員・山部分館長)

講師紹介

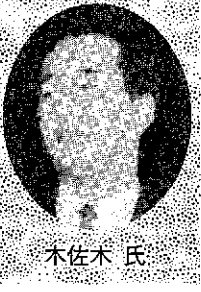
木佐木哲朗講師は、平成三年明治大学院政治経済学研究所博士後期過程満期退学後、国立民族学博物館共同研究員、横浜国立大学非常勤講師などを歴任され、平成五年より県立新潟女子短期大学講師として活躍されています。

このたび、文化人類学専攻のご造詣深い角度から、地域社会の原点を示していただきます。

この内容は、分水町生涯学習推進大会でのお話の録音を編集子がご本人のご了承を得て掲載したものです。

課題を追って  
(農耕民)社会に学ぶ  
(その1)

木佐木 哲 朗 氏



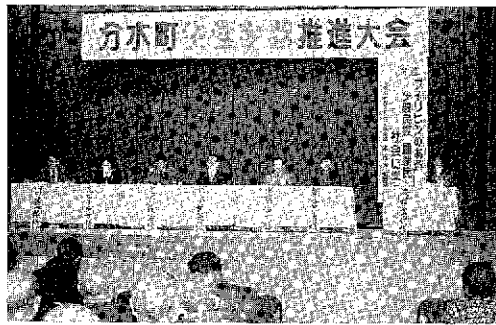
木佐木 氏

はじめに

ただ今ご紹介いただきまし、県立新潟女子短大の木佐木と申します。本日はこのような機会を与えていただき、誠にありがとうございます。私は、文化人類学という学問を専攻しておりまして、主にフィリピンのある少数民族(ポントックと呼ばれる人々)のムラで、生活を共にしながら彼らの文化を学んでおります。今でも不十分ですが、生活しながらまず彼らの言葉を学ばねばなりません。そして、私たち日本人の尺度でものを見ることを極力避け、彼らの実像に触れながら彼らの脈絡に沿って考えようと努めてきました。部分的にとらえると、奇妙に見えたり残酷に見えたりすることもありますが、本質的には私たちがさほど変わりはないと思われることが多々あります。技術的に見れば、粗末であり遅れていることもありませんが、彼らすなわち少数民族の社会から、私たちが学ぶことはたくさんある、ということを理解していただければ幸いです。

一、多民族国家・フィリピンの概観

はるか紀元前より紀元後数世



紀にかけ幾波にもわたり、南方から小規模の移住がフィリピン全土に繰り返されました。またまった移住ではなく、時期もさまざまであり、海岸・平野部から人々が住み始め、徐々にフィリピンという多くの島からなる国ができたということでしょう。また、一五二一年のマゼラン到着以前は、中国やインドやイスラムの影響がありました。その後三〇〇年以上に及ぶスペインの植民地、今世紀のアメリカ統治の影響は非常に大きなものです。スペインの「剣と十字架」による分割統治とは、武力とカトリックによる精神的支配を中心とする、各地の修道会を通しての統治です。一方、アメリカの統治の特徴は、教

育・文化を重視した植民地政策と言えます。そこで、人種・言語・文化的にも複雑な民族構成になったわけですね。生業も、採集狩猟・焼畑耕作・水田耕作などさまざまです。約六〇もの少数民族(非キリスト教徒が中心)と、タガログやイロカノなど低地に居住する多数民族(キリスト教徒)を含めると、全体で八〇以上の民族よりフィリピンは構成されていると言えます。そして、歴史的にもフィリピン全土はおろか民族を統一するような王国が成立したことはなく、バラバラのまま今日に至っているとも言えます。これは、東南アジアでも特殊なことであり、国語(タガログ語を基本とする)の問題や国民意識を育てることは、国家政府の関心事でもありません。

私たちが「日本人」という言い方に対して、「フィリピン人」というような言い方は、実際意味がない場合があります。とくにこれからお話しするポントックの人々は、「フィリピン人」という意識を持っていないと思えるのです。例えば日本内部では、「新潟県人」とか、「鹿児島県人」という意識はありますが、お互い会話は可能だし共通なものを持ち合わせているために、「日本人」という意識を持っています。

二、フィリピン社会の一般的特質

先程も述べたように、フィリピンには小規模な移住が繰り返されましたが、その際バランガイと呼ばれる小船を利用して海を渡って来たようです。そこで、人々が定住した集落もバランガイと呼ばれるようになり、この小地域社会が現在でも重要な生活の基盤をなしています。本来バランガイ社会は特定な首長を持たず、双系的な親族集団の集まりで構成されてきました。双系というのとは人類学の用語ですが、子供から見ると父方・母方双方を対等にたどるといふことです。竹から同時に男と女が誕生するといふタガログの神話でも分かるように、男女の関係も元来非常に対等であったわけですね。

バランガイ社会同様、家族も大切な存在です。タガログ語では、家族を「マグ・アナク」と言いますが、これは直訳すると「子供による結合」という意味になります。つまり、子供が特

# シリーズ 暮らしの フィリピンのある少数民族

## 県立新潟女子短期大学 国際教養学科専任講師

性優位原理が導入され、男女の対等性が崩れたとも言えるのである。

ところで、フィリピン社会で特別な意味を持つ、鍵になる言葉がいくつかあります。その中で、重要と思われる「ヒヤ」と「ウータン・ナ・ロオブ」を取り上げてみましょう。前者は「恥じ」に近い概念であり、後者は「内なる感謝の負債」というような意味です。人間関係において、借金やその他の借りだけでなく精神的な負い目の人々は互いに感じるわけですが、それを事あるごとに意識し返そうとしなければなりません。それに反するものが、ヒヤ(恥じ)ということになります。例えば、フィリピンにはいわゆる割り勘という慣習はありませんが、その際出してもらった他の人は「ウータン(負債)」を心の内に感じ、次の機会に出すとか別な形でそ

れに報いなければなりません。そうしなければ、最大の侮蔑語にもなる「ワラン・ヒヤ(恥知らず)」と言われます。しかし、貸した側が直接返済をせまってはいけません。それは、相手に恥をかかせたことになり、大きな事件に発展しかねません。借りた側が自主的に返す義務を負うわけで、周囲もそのように期待し仕向けるのです。

### 三、北部ルソン山岳地帯に居住する少数民族から学ぶ

ルソン島の首都マニラから直接距離にして北方二〇〇キロあまりの所に、北部の中心地バギオ市があります。そこから北東に直線にして一〇〇キロ弱行くと、山岳地帯の中心地ポントック町に到着します。バギオからは山肌を縫うようにしてバスで七、八時間かかりますが、そこ

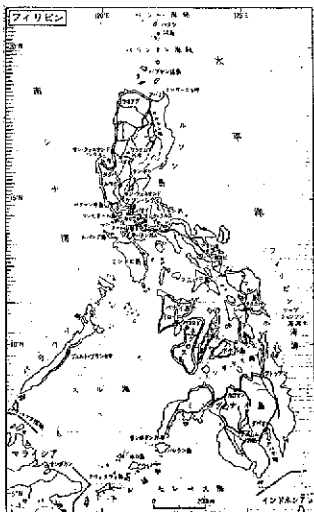
ことはありませんが、低地の人々に比べはるかに伝統的な生活を送っており、彼らの中にフィリピンの基層文化を見い出せると考えます。そこでこれから、生活を共にしたりして長い間かかわってきたポントック社会の人々の文化から、私が学んだことのいくつかをお話ししたいと思います。

ポントックと呼ばれる人々は、マウンテン州に約三万人程度いると思われまます。ただし、この名称は他から与えられた呼び名です。彼ら自身は、私には「ハボン(日本人)」と聞きますが、自らは自分の出身ムラ人「イ・A(Aムラから来た人)」と名乗ります。つまり、彼らは自らのアイデンティティをムラに求め、それ以上の枠組みがありません。それ以上を枠組みがあまり意味を持たないわけです。事実、ポントックと呼ばれる人々の内部はバラバラで、互いに隣接するムラ同士でも潜在的には敵であると考えています。しかし、生業や慣習・信仰などが共通しているので、周囲からポントック族と呼ばれてきました。

を栽培し、その他サツマイモやサトウキビ、豆類やタバコなども栽培しています。自重自足の生活が原則ですが、最近では野菜やコーヒーなど換金作物を栽培することもありません。

次に、家族や親族それに財産の相続の問題についてお話しします。家族は「シン・パン・アフォング(同じ家屋に居る者同士)」と表しますが、生計を共にする基本的社会単位であり、世帯と言った方がよいかもしれません。世帯の構成員は、夫婦と未婚の子供からなる核家族です。そして財産は、父から息子へ、母から娘へ相続され、長男・長女がやや優遇されます。男の子だけあるいは女の子だけの場合は、母のものが息子へあるいは父のものが娘に相続されます。子供がなかったら、夫や妻の財産はそれぞれの兄弟姉妹などに渡されます。また夫婦の財産は、結婚しても統合されることはなく、たとえば、結婚前から妻が持っていた畑や豚を勝手に夫が処分することはできません。ただし、結婚後二人で作った財産は共有のものとして、次男・次女以降に相続されます。ところで親族は「シン・パン・アポ(先祖にたつらなる者同士)」と言われますが、これは共有山林の利益権を主張する際に用い

定の男女を結び付けるとしてもいいでしょうか、日本の「子はカスガイ」にも通ずるかもしれません。また夫婦のことを「マグ・アサワ」と言いますが、アサワとはそれぞれの配偶者のごことであり、夫と妻は対等な関係にあります。そして、原則核家族世帯であり、親夫婦との同居は避けられます。また親類も重要ですが、双系的に血縁をたどり兄弟姉妹の関係が重視されるとともに、姻族もそれに含まれます。さらにカトリックの影響による、洗礼・堅信・結婚などの儀礼にまつわる儀礼オヤ制度も無視できません。そして、皮肉にもスペイン法やカトリックの男



影響がないという

人々が住んでいるわけですが、この地帯にも学校教育やキリスト教などの

林の利益権を主張する際に用い

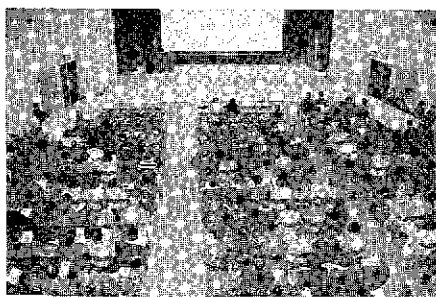
られます。ある先祖につらなる人々が共有している山林を、棚田造成や材木採取のため使いたいということ、父方・母方のラインを適当にたどり復讐する祖先の中から、特定の先祖を選ぶわけです。さらに、集約的な労働力を必要とする農耕のいろいろな段階での共同労働は、兄弟姉妹関係や姻族を含む双系的な親類や近隣・友人関係を基にして、その時々で作られるグループで行われます。

ここで問題があります。それは彼らの慣習法と国家法との対立です。彼ら先祖伝来の土地は、法的には登記されていないものがほとんどであり、その土地が、森林伐採や鉱山採掘やダム建設のために政府や企業に取り上げられ、開発という名目で奪われる危険性に常にさらされているということなどです。また、相続も国家法では子供たちの均分相続ですが、慣習法では異なりまます。さらに、離婚もカトリックの影響で国では認められませんが、彼らの慣習では認められています。ところで、棚田を奪われるということは彼らには死活問題です。彼らの伝統的生活は稲作農耕歴に基づいており、当然のことながら、その暦は慣習法的なものです。学校などでは国の暦により運営されます

が、農耕歴は厳然と生きており、経験豊かな長老たちが集まって話し合い、田起こし・苗代作り・代かき・田植え・虫払い、刈り取りなどの時期を決め、儀礼も行いながらムラ全体の生活が営まれます。注目すべきは、例えば田植えを始める前に長老たちがムラの「テンガオ」と呼ばれる休日を宣言すると、ムラ人全員が農作業を休みムラの外へ出ることもなく休まなければならないことです。これは、体力を考えて休養を取らせるといふ意味もありますが、情報交換やムラとしての結束を高めることに役立ちます。そして、この休日には「アイト」と呼ばれる死霊にとくに気をつけ、そのメッセージに耳を傾けながら、豊作を祈り人々は忌み籠もるわけです。この忌み籠もり日に従いムラは閉鎖されますが、これが破られると作柄に悪影響を及ぼすと信じられています。ところが、外部の権力(軍・警察やゲリラ)はそのことを理解せず、ムラへ入ろうとすることがあるようです。

このようにムラのもとまりが非常に強く、精霊信仰も根強く残っています。ムラは「イリ」と呼ばれますが、イリの中には必ず複数の「アト」と呼ばれる祭祀集団があり、ムラ人すべて

結果的には世帯単位(男は直接、女は婚前の父の、婚後は夫のそれに間接帰属)でどこかのアトに所属しています。この祭祀集団は、儀礼を行う際を中心になりますが、さまざまな事柄を長老たちの合議で決める政治集団でもあります。この社会にも階層がないわけではありませんが、出身や貧富によって差別されることはあまりありません。孫がおり儀礼を司れるようになれば、その知識や実績によって長老は原則対等に尊敬され発言権が与えられます。そして、女性や若者の意見も反映され、民主的な合議で得られた結論は絶対的なものとなります。アトがまつりごとの中心であり、そのアトを通してイリに人々はまとめられていくと言えましょう。(次号につづく)



講師の話にききいる会員

## 公民館職員としての心構え

公民館は教育施設であるから、市町村の一般行政部門の仕事と違って、住民の心を知らねばならない。また、地域に立脚した施設なのだから、「館」にばかり閉じこもらないで、対象区域の隅々まで知る心掛けが大切である。次に、公民館職員としての心構えを記そう。

一、地域を知ること

地域の実態に即して、「今何が必要なのか」「これから何が必要になるのか」を見通した事業の計画立案や実施が肝要である。

よってまず地域の実態を把握することが大切。

対象区域内の①人口構造(町内・集落単位の世帯数、人口、年齢構成別人口、性別人口など)②職業構造(職業別の世帯、性別人口、無職人口など)③交通事情(公民館への距離、交通機関、所要時間など)④地域の年中行事など、⑤伝統文化、主要産業などの把握。

これらは、いわば基礎資料であり、駆使使用することは当然のこととして、これらの資料で得られない住民の生活課題もある。「住民の現在の生活の中にと

のような問題があるか、公民館が取り上げる必要のある課題は何か」を知るため、自分の足で把握しなければならぬ。

二、機関・団体を知る

社会教育(的)事業は、公民館だけで実施しているわけではない。他の社会教育機関、社会教育関係団体のほか、教育機関でないところも行っている。

したがって、これらの機関・団体と連携して地域ぐるみの組織的・効率的な社会教育を推進する上から、これらの機関・団体の知る必要がある。また、いふまでもないことだが、単に機関・団体の名称や所在地を知るのみでなく、関係者との人間関係を密にし、連携が円滑になされるようにすること。

三、区域内の学識・技能・趣味などのリーダーを知ること

社会教育は、本来自己又は相互による教育活動である。遠くから招いた講師だけが指導者ではない。身近にいる指導者を発掘して、ボランティアを中心にした活動を考えること。

地域内に住む学識経験者、技術所有者、趣味人等を調査し活用するよう心がけること。

# サークル交流

## 「首の皮一枚」

### 十日町の市民コーラス活動 サンデーボーカルアンサンブル

大味な合唱よりデリケートな重唱を好むコーラスグループ。日曜日に歌うのでこの名がつけ

ました。メンバーは約十人、半数は教員ですから毎年メンバーが交替しますが、退会という概念がなく、一朝事ある時は県内各地から旧メンバーが駆けつけます。

活動拠点である十日町市は人口四万六千人弱のまちですが、ルネッサンス音楽を趣味と



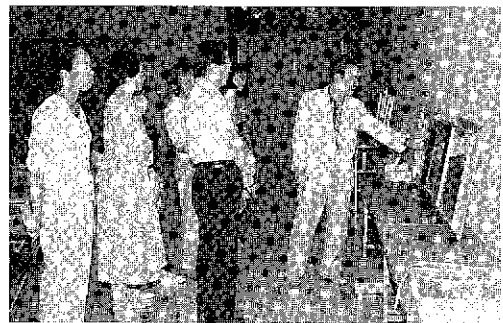
する人はごくわずか。ですからこのグループの成立要件であり特徴とも言えるのが市外からの参加者です。車で一時間近くもかけて毎週通っている人さえいます。

このグループの目標は、全員を音楽科卒の教員にするという、市民団体としては特異なものです。若者の流出が続くこのまちではまともな市民合唱活動は無理。苦肉の策ながら当市を活動拠点とする有力な団体をつくることで、その素晴らしさ、楽しさを市民に伝承しようという考えです。市民参加を前提とする音楽活動にとってこのまちはそれ程厳しい状況なのです。(サンデーボーカルアンサンブル 上原伸一 記)

### たのしみがふえました 津川町「彩友会」

平成四年の夏、町の公民館講座による町では初めての油絵教室がほとんどが初心者十名の参加者で開校され、グループがスタートしました。

最初のキャンバスはある種の興奮と感動を覚えました。幸い講師も町内の方でしたから親切



丁寧な教えていただき、秋の文化祭には出品するところまでになりました。五年度より会は独立して自主運営の形で月二回の教室で行っています。

昨年は五泉の小柳耕司先生を招いて絵についての勉強会をしました。それから会員も絵に対する視点も変わってきたようにも思われます。

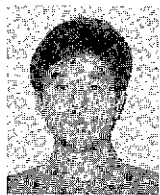
最近では銀行、郵便局、役場のロビーに展示をしたりして町の皆さんに喜ばれているようです。ただ、会員は仕事もちながらの趣味ですから時間が取れず悩んでいます。あせらずじっくり趣味として励まされたいと思っております。

(彩友会 田崎英司記)

### 大島村公民館・社会教育指導員

石塚 隆昭 氏

「公民館の主」と呼ばれる11年目の大ベテランを紹介しましょう。



その人の名は「石塚隆昭さん」。なんと本業はお坊さんであります。本業が本業だけに酒豪です。(お坊さん皆さんとは言いませんが)飲んで11kmの道のりを歩いて、または走って自宅まで帰ったこともあるとか……

3年前に遅咲きながら社会体育全般を一手に引き受け、村体育団体連合会・村ゲートボール連盟の事務局も任されています。公民館の仕事と本業で、まったく体の休まることのない日々が続いています。しかし、それを苦にしないパワーは、若くて綺麗な奥さんを持つて生まれた丈夫な体のお陰でしょうか？

(大島村公民館 武江 朋枝 記)

## 素顔拝見

### 豊栄市中央公民館主事

倉田のぞみ 氏

プロフィール・独身・身長一六〇センチメートル体重その身体的なことは一切不明・趣味・音楽・水泳・思考方法・科学思考。市内外を神出鬼没に動き回り六十余りの子ども会の事務局をつとめ、キャンプ用品の貸出等の調整、五泊九日の少年少女リーダー研修会・二泊三日の少年探偵団の引率・運動会・クリスマス等の集い等々を難なくこなしている。さらに早通地区公民館担当もおこなっている。



早通地区は、新潟市のベッドタウンとして急速に人口が増加した街であり、新しい市民の方が多く事業展開、企画とも工夫のいるところであるがそこは、得意の科学思考を駆使して頑張っている。昼・夜と目が回るような忙しさを若さとシャープな動きでカバーしている。

新卒で公民館に配属され二年目、更なる活動を期待している。

(豊栄市中央公民館 星野 正一 記)

